

## 神奈川県横須賀市の土砂災害について情報収集を行いました(2014/6/6-7)

テーマ：土砂災害速報  
場所：神奈川県横須賀市

2014年6月初旬、梅雨前線と湿った空気の影響により、九州・四国や関東を中心に各地で激しい豪雨が観測され、神奈川県横須賀市では6月6日から7日にかけての豪雨で土砂災害が発生しました。災害科学国際研究所緊急調査WGの森口周二准教授(地域・都市再生研究部門)が、本災害に関する被害情報の収集と発災メカニズムの整理・推定を行いました(下記参照)。夏季から台風シーズンに向けて今後もこのような土砂災害、洪水災害等の豪雨災害が高頻度で発生する可能性があります。緊急調査WGでは、しっかりと情報収集に努めるとともに、甚大な被害に対しては迅速な現地調査を実施できるよう、準備していきます。

神奈川県横須賀市の土砂災害について

作成：森口周二

誘引：6月6日～6月7日の降雨

崩壊規模：高さ35メートル、幅20メートル

発生時刻：6月6日深夜～7日午前1時頃までの間(7日午前1時に一般市民から警察に連絡)

発生場所：神奈川県横須賀市ハイランド1丁目市道沿い(ハイランド入口)

人的被害：なし

その他の被害：崩壊土砂は幅8メートルの道路を約20メートルにわたって遮断。  
道路の反対側まで土砂が到達し、駐車していた乗用車2台に被害。



現場の様子(神奈川県新聞 NEWS&COMMUNITY, <https://www.kanaloco.jp/>)

崩壊の形態は急傾斜地崩壊（土砂災害防止法のカテゴリ）。アメダスのデータから推定すると、崩壊までの連続雨量は150mm程度であり、その間の最大時間雨量は20mm程度。横須賀市のハザードマップにも土砂災害警戒区域として指定されている。航空写真で確認できる青い部分は、昨年10月16日の台風26号の襲来時に発生した崩落箇所の応急処置として設置されていたブルーシート。昨年度と同じ場所が崩落した。

この場所は平成23年10月16日（水曜日）の台風26号により、今回崩落した擁壁から下の法面が崩落していた場所で、その際には崩落土除去後に崩落防止のための仮板柵とブルーシートによる法面保護をしていた。擁壁が崩落した土地及び下側のガケ共に民有地であるため、市は土地所有者に対して改善に向けての勧告を行い、その後の地盤変動がないかの定期的な測量による観測を行っていたが、平成26年6月2日（月曜日）時点では変化は無かった。（横須賀市HP「ハイランド1丁目法面大規模崩落について（第1報）（2014年6月7日）」からの抜粋）。



災害発生前の現場の様子（Google map ストリートビュー） 2010年撮影



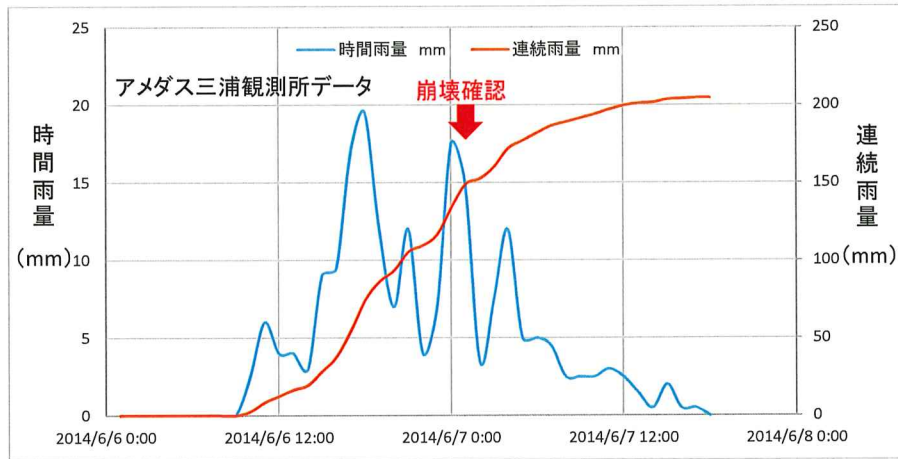
現場位置（Google map 広域）



現場位置（Google map 拡大）



現場位置 (Google map 拡大, 航空写真) 2014 年撮影



最寄りのアメダス観測所 (三浦) の雨量データ

[http://www.jma.go.jp/jp/amedas\\_h/today-46211.html?areaCode=000&groupCode=32](http://www.jma.go.jp/jp/amedas_h/today-46211.html?areaCode=000&groupCode=32)



横須賀市の土砂災害ハザードマップ (久里浜地区)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2005/bousainavi/doshamap.html>

文責：森口周二 (地域・都市再生研究部門)

呉 修一 (災害リスク研究部門)